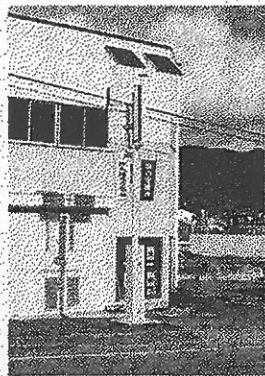


太陽エネルギーデザイン研究会(会長・伊澤岬日大教授)は21日、岩手県大船渡市の金野周明副市長を訪問し、防犯街路灯の写真を寄贈した。

街路灯は、金属加工業の菊川工業(東京都墨田区、宇津野嘉彦社長)が開発、販売中のエコハイブリッド防犯灯「街の守護神」。太陽光だけでなく、縦型風車による発電が可能で、2種



太陽エネルギーデザイン研究会と菊川工業

類のLED防犯灯の他、非常ボタンで作動する緊急サイレンと録画機能を備える。津波被害で解体された旧大船渡駅西側街路の歩道に工事が建てられた。

太陽エネルギーデザイン研究会を代表して市を訪問した建築家の北川卓氏(フレイムデザイン代表取締役)

大船渡市に防犯街路灯寄贈

役)は「被災地支援の一助 境製品開発室の横田宏之室として、再生可能エネルギーを使った設備の提供を始めた。岩手県では宮古市に続いて2例目の縁となった」と趣旨を説明した。防犯灯を提供した菊川工業環

は、仮設店舗も整備中で、



目録贈呈(右から金野副市長、北川氏、横田氏、金野支部長)

これから人通りも賑やかになる。市民が安心できる設備を建てていただけたいことに感謝したい」と謝辞を述べた。

今回、防犯灯の設置作業は岩手県建設業協会大船渡支部が担当した。金野健支部長(明和土木社長)は「設置場所は市建設課の指導を得ながら、3月12日に道路啓開や捜索を開始した場所を選んだ。復旧・復興のすべてはあの場所から始まった。大船渡のシンボルになってほしい」と語った。